

高学年分科会

児童が主体的に学ぶ ICT を活用した授業づくり
～ICT の活用を通じた個別最適化と協働的な学び～

第5学年 社会

単元名 米づくりのさかんな地域

本時 第7時 (全11時間)

本時の目標

短い労働作業で多くの米を生産するために行われてきた取り組みに着目して、米づくりに携わる人々の工夫や努力をまとめる。

本時の手立て

○意見交換をするための Jamboard 活用

児童が考えを出し合い意見交換をするために Jamboard を使う。児童は、リアルタイムで意見交流ができ、グループ全員が話し合いに参加することができる。また、他グループの意見も参考にすることができ、自分の考えをまとめるための参考資料にも活用できると考えた。(協働的な学び)



7月3日

めあて 米はどのようにしてわたしたちのもとに届けられるのか、調べてみよう。



まとめ カントリーエレベーターにあずければ、トラックで運搬され、スーパーマーケットに届けられる。農家に直接注文することもできる。

ふりかえり お家が農業者の手に届くのは、色々な工夫があったからこそできるのだなと思いました。



○学習を深めるための Google ドキュメント活用

児童が自分の考えをまとめるために Google ドキュメントを使い、タブレット上に学習の記録をまとめるデジタルノートを作成する。デジタルノートでは、児童がそれぞれ必要な資料が選択でき、めあてに対して必要な情報を選択したノート作りができると思った。(個別最適化)

成果と課題

○Jamboard の活用によって、児童全員が自分の考えをグループ内に共有させることができた。それにより、グループの中で互いの意見を基に話し合いながら学習のまとめへと繋がっていた。他のグループの意見を参考にできる利点もあった。

○Google ドキュメントの活用によって、学習したことを自分でもう一度考えながら、必要な資料を選択してまとめ、ふりかえることができた。書字への抵抗を減らすこともできた。

○学習のスタイルをパターン化したことによって、児童は学習をスムーズに始めることができた。教師はいつでも児童の学びを見ることができ、評価する時間の確保になった。また、デジタル教材のため、学年で共有することで、授業準備の時間を減らすことができた。

△多くの意見を Jamboard で出し合っているにもかかわらず、交流の場面では、画面に注視してしまうことが多く、グループでの話し合いを活発にする手立てが必要であった。そのために、目を見て伝えることや共通点を探すことなど、話し合いの流れをどのように示すかが課題である。

高学年分科会

児童が主体的に学ぶ ICT を活用した授業づくり
～ICT の活用を通じた個別最適化と協働的な学び～

第5学年 国語

単元名 物語のおもしろさを解説しよう

本時 第6時（全9時間）

本時の目標

「注文の多い料理店」を読んで理解したことに基づいて、人物像を踏まえながら自分の考えをまとめることができる。

本時の手立て

○自分の考えをもつための Jamboard の活用

読みのめあての中で、叙述を根拠に自分の考えをもつ学習の際には、指導者が Jamboard を使って班ごとのホワイトボードを作成し、Classroom に貼り付ける。児童は自分の班のホワイトボードに入り、それぞれの付箋の色を決めてから付箋に考えを書き、出し合う。考えを付箋に打ち込むことで、児童が考えをもつことができたかどうかを視覚的に分かりやすいと考えた。



その際、叙述を根拠にするために、全文シートを活用し、教材文を読みながらタブレットに打ち込むことができるようにする。（個別最適な学び）



○自分の考えを深めるための Jamboard の活用

個人の考えの付箋をすべて同じ色に変え、「わたしたちの考え」として考える準備をする。班での交流を通して、班の考えとしての度合いを付箋の大きさと表現する。自分の考えの根拠を明確にして、よりよい考えを求めて話し合うことをねらいとした。（協働的な学び）

成果と課題

○Jamboard を活用し、付箋に打ち込む方法にしたことによって、書くことに苦手意識がある児童も抵抗を示すことなく、どの児童も自分の考えを表現することができた。タブレットを通して、教師が児童の考えの内容や進捗状況をひとめで把握することができるので、悩んでいる児童に対して支援をしたり、全体共有でどの考えを取り上げるか構想したりすることができた。

○ICT を活用することでその場で友達のことを知ることができるので、自分の考えを広げたり、友達のことを参考にしたりすることができた。

○本単元のゴールとして設定した言語活動である「作品のおもしろさを伝える解説文を書く」ために、ICT を活用したことで情報を追加したり修正したりして毎時間の学びを蓄積することができた。

△トリオでの話し合いの際に、よりよい考えを求めるといっても、一人の考えに集約する話し合いになっていた。めあてをより明確にすることや話し合いのしかたの指導について課題が残った。

△タブレットに打ちこむことで児童の思考が途切れてしまったり、考えをつなぐ等手書きであればすぐに行うことが難しかったりする様子が見られた。児童の ICT 技術を系統的に指導することやねらいによってタブレットの活用が効果的か吟味して取り入れることが必要である。

第1学年 算数

単元名 いろいろなかたち

本時 第3時（全5時間）

本時の目標

箱や筒などの形に着目した仲間分けの活動を通して、立体の形の特徴をとらえることができる。

本時の手立て

○具体物の活用

様々な形を仲間分けする際には、児童が十分に形を触ったり、色々な方向から形を見たりして友だちと話し合いながら仲間分けをしていく。具体物を手に取り、似ているところに注目してすすんで仲間分けをしようとする姿が見られると考えた。



○タブレットの活用

オクリンクを全体共有の段階で使用する。班ごとに仲間分けした集合の写真を撮り、提出する。自分の班と似ているところを見つけたり、よりよい考えをもつ班を見つけたりして、それらを全体で共有することで、より自分の考えを深めていけるのではないかと考えた。

成果と課題

○子どもたちが前時までの学びを活かし、仲間分けの根拠を言語化することができた。

○仲間分けをする際に具体物の操作をすることで、形の特徴を実感をもって捉えることができた。

○【協働的な学び】グループでの弁別活動では、それぞれが同じ目的意識をもって取り組むことができた。

△【個別最適な学び】図形のグループに名前をつける活動では、個別の支援が必要な子が多くいた。また、全体での検討の後に改めて個人の活動に戻るとより学びが深まったのではないかと考えた。

△【ICT の活用】電子黒板での表示方法を工夫したり、写真の撮り方など基礎的な技能を普段から習得させたりする必要がある。

△図形のグループ分けで完結してしまい、全体検討で見比べることまで意欲が向かない子がいた。発問や授業展開、めあての設定などを工夫していく。

生活単元学習

単元名 みんな知ってる！？ 日本の旅

本 時 第12時（全20時間）

本時の目標

- ・タブレットを活用し、担当地方のおいしいものや食べてみたいものを調べたり、画像を選んだりして、クイズのテンプレートを作ることができる。
（主体的な活動・個別最適化）
- ・上級生を中心として、役割を分担し、友達と協力してクイズ作ったり、発表したりすることができる。
（協働的・個別最適化）

本時の手立て

○テンプレートの作成

- ・教師が3色のテンプレートを作成することにより、児童が自分の担当を認識しやすくし、意欲的に取り組めるようにした。
（主体的な学び）
- ・個々の担当をはっきりさせることにより、自分のテンプレートの精度を上げられるようにした。
（個別最適な学び）
- ・班のリーダーが役割分担しやすい環境をつくった。



○全員参加によるクイズの作成

- ・「班のメンバーで1つのクイズを作成する」という課題設定をすることにより、責任をもって取り組まなくてはならない環境を整えた。
（協働的な学び）
- ・ICTを活用することにより、一人一人がクイズに参加できるようにした。
（主体的な学び）
- ・児童が興味関心をもてるものをクイズのテーマとした。
（主体的な学び）

成果と課題

- ICTを使って作成したクイズに実際に答えられることを児童が分かったため、意欲的な活動に結び付けることができた。
- クイズの作成や発表を上級生が下級生に教えるなど、協働的な学びにつなげることができた。
- 同じ形式で繰り返し活動に取り組んだことで、作業手順が身に付き、研究授業から時間が経過してからも同様の作業に取り組むことができた。
- △児童の実態に合わせた形でテンプレートを教師が作成し、授業後に更新を繰り返した。現時点で考えられる適切なテンプレートとなったと思うが、その分、大変時間がかかった。
- △班のメンバーによって実態が違うので、協働でクイズを作成するのが難しい班もあった。